

週報



<テーマ> 違いの中にキリストを告白する群れ

～ 響き合う礼拝とひろば ～

<年間テーマ> 主に望みをおき、出会い結び合わされて

<聖句>

イザヤ書 40:28～31

～主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることなく、歩いても疲れない。

エフェソの信徒への手紙 4:16

キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり
組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分は分に応じて働いて体を成
長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

「敵を愛し、迫害する者のために祈るということ」

先週はそれぞれ追悼の時を過ごされたことと思います。今週もお一人お一人に神の伴いを祈ります。

マタイ福音書5～11章はイエス・キリストの言葉群、「山上の説教」と呼ばれる箇所です。その中のいくつかは旧約の律法をイエスが語り直しています。『隣人を愛し、敵を憎め』。前半はレビ記にありますが、後半の言葉は聖書にありません。苦難の歴史を生きて来た当時のユダヤ人たちに解釈として伝わっていたのでしょうか。主イエスはしかし語り直します。『敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい』。いつ聞いても衝撃的な指し示しです。自然か不自然かで言うなら人間にとって不自然なことではないでしょうか。主イエスが土台としているのは、神がどのような方か、神はどのように私たち一人ひとりに対しておられるかです。善人にも悪人にも太陽を昇らせ、正しくない者にも雨を与える。善人や正しい者から見たら実に不平等ですが、神は人間たちに「同じように」関わり愛しておられる。そしてこの神の関わりをわたしたちも受けている。「天の国は近づいた(4:17)」。だからあなたがたは、敵意や悪意によって攻撃したり、時にはあなた方自身が隔てを作っている相手を、この神の愛に向き直って土台とし、その人々に相対し、祈って行きなさい。神の前で、その人を神の前にある存在として受け止めるところから。その行為と祈りにはいつも十字架と復活の主イエスが伴っておられると信じます。【井形英絵】

日本バプテスト連盟

神戸バプテスト教会

牧師 井形 英絵

主日礼拝

毎日曜日 午前 10:30～11:45

共育のひろば

第1・2日曜日 午前 11:45～12:40(成人クラスA・B・C)

第2・3・4日曜日 午前 11:45～12:40 (小学生クラス)

幼稚園C・S

日曜日 午前 9:00～10:20(1月19日,26日)

ひまわりひろば

日曜日 午前 9:00～10:20(1月19日,26日)

祈禱会

毎水曜日 午後 19:00～20:15

教会についてのお問い合わせ、バプテスマの希望や他教会からの転入、またご相談のある方は
牧師、又は教会事務局までご連絡ください。

〒650-0003 神戸市中央区山本通 1-7-27 TEL078-231-7187 FAX078-221-5252

ホームページ:kobe-church.com 事務局Eメール:jimukyoku@kobe-church.com



祈りの課題

- 1、神戸バプテスト教会 2024 年度福音宣教と諸計画諸活動のために。新年度に向けての振り返りと計画のために。
- 2、光の丘幼稚園園児・保護者・教職員のために。新園児の募集、3学期の保育を覚えて。
- 3、井形英絵牧師の働きと健康が守られますように。
- 4、能登半島豪雨・地震、宮崎地震、山形大雨災害、世界各地で被災された方々、支援にあたっておられる方々のために
- 5、イスラエル、パレスチナ、スーダン、ミャンマー、アフガニスタン、ウクライナとロシアなど紛争と戦争の只中にある方々の命が守られますように。すべての人々のいのちが尊重される自由と平和が実現しますように
- 6、台湾地震、モロッコ、リビアの災害、トルコ・シリア大地震で被災された方々の命と日々の生活が守られますように。
- 7、子どもたちの心と体の成長が守られますように。
- 8、病の中にある方、療養中の方、その方々を支えておられるご家族のために。
- 9、困難の中にいる方々と共に生きるすべてのキリスト教会と信徒の信仰生活の守りのために。
- 10、新会堂建築計画の導き。会堂建築委員会の働きのために。
- 11、これからの神戸教会のために。教会員が共に語り合い、主の御心を求めることができますように。

【連盟・連合・他教会の祈り】

- ◆日本バプテスト連盟の全国 316の教会・伝道所のために。特に連盟の機構改革と新しい体制での働きのために。第70回定期総会（2025年2月）と準備のために。協力伝道週間（1/26～2/2）を覚えて。
- ◆関西地方教会連合の36教会のために。2024年度の連合の働きのために。1・17祈念礼拝のために。

交読 詩編二七編一〜六節「主への信頼」

主はわたしの光、わたしの救い

わたしは誰を恐れよう。

主はわたしの命の砦、

わたしは誰の前におのくことがあろう。

さいなむ者が迫り、わたしの肉を食い尽くそうとするが、

わたしを苦しめるその敵にこそ、かえって、よろめき倒れるであろう。

彼らがわたしに対して陣を敷いても、

わたしの心は恐れない。

わたしに向って戦いを挑んで来ても、

わたしには確信がある。

ひとつのことを主に願ひ、それだけを求めよう。

命のある限り、主の家に宿り、

主を仰ぎ望んで喜びを得、

その宮で朝を迎えることを。

災いの日には必ず、主はわたしを仮庵にひそませ、

幕屋の奥深くに隠してくださいる。

岩の上に立たせ、群がる敵の上に頭を高く上げさせてくださる。

わたしは主の幕屋でいけにえをささげ、

(一同) 歓声をあげ、主に向かって賛美の歌をうたう。